



平成 26 年度「篠ノ井西中学校 学校通信」

発行日 平成 26 年 12 月 3 日

第 34 号 (161 号) 校内版

長野市立篠ノ井西中学校

電話 (026) 292-0244

FAX (026) 292-7880

担当：教頭 中山

布施だより

《 予想・実験観察・考察 ～ 理科の授業から ～ 》

ある日の「理科」の授業です。 ～ ～ ～ ～ ～

単元は『物質の状態変化』です。『ろうが液体から固体に状態変化するとき、質量や体積はどうなるか』という「学習問題」に取りかかります。生徒たちの予想は以下のようです。

質量：減る＝「0」 増える＝「1」 変わらない＝「多数」

体積：減る＝「1」 増える＝「2」 変わらない＝「多数」

さっそく、質量は「量り」で確認し、体積は「ビーカーに印をつけて」状態変化を観察することにしました。

『学習課題』は「ろうが液体から固体になる時の質量や体積を調べよう」と設定されます。

授業者から、熱して溶けて「液体になったろう」を受け取った各班の生徒は、ビーカーに「ろう」の量を示す場所に赤いラインの目印をつけ、質量を計ります。

次いで、ビーカーがすっぽり入る形に穴の開いた氷の中にビーカーを入れ冷やします。(この型に水を製氷させ、より観察しやすくしたことが、理科教科会による教材研究の妙です！)

しばらくすると液体だったろうが次第に白くなり、量が減り始めます。見た目にもはっきり分かるほど体積が減ったろうが固まった時点で質量を計ると、ほとんど変化がありません。さあ、ここからです。ろうの中でどのような変化があったのかを考えます。3名の生徒が考察を発表します。

・Yさんは「粒子があつまってきたのでは。」 ・G君は「粒子がちいさくなったのでは。」

・Wさんは「粒子がぎっしりになっている。」

それを聴いていたS君は、学習ノートにある液体のモデルの粒子に→をつけ始め、「液体の時の粒子は動いていたのが、固体になると動きが縮んだ」と書き込みました。

その書き込みを受け取った授業者に促されてS君は考えを伝えます。みんなの前で発表したS君に対して、「粒子のすき間がなくなるからだね。」と自らの考察を授業者に支持され、にっこり。

予想をもち実験観察を通して、物質の状態変化について追究・考察をした1時間でした。

《 第50代生徒会 ～ 立ち合い演説会から ～ 》

第50代生徒会正副会長選挙立ち合い演説会が11月20日(木)にありました。

候補者諸君はまっすぐに公約を訴えます。〈 50周年目の学校をより良くしたい 〉〈 笑顔プ



プロジェクト 〉〈 意見箱の設置 〉〈 あいさつ運動を伝説とする 〉〈 学校生活の凡事徹底 〉
〈 コミュニケーションを深める 〉〈 責任感をもって委員会活動に向かっていく 〉〈 一期一会 〉〈 仲間との絶妙のコミュニケーション 〉 公約を支える責任者諸君がその人柄を押す理由は
〈 汚れた配膳台を自分から拭ける 〉〈 叱るべき時に周囲を叱れる 〉〈 膝をついて雑巾がけができる 〉をそれぞれ伝えてくれます。

気づくと、聴いている生徒諸君は水を打ったように静寂を保ち、顔を挙げている。

ステージ上では、二人が息を揃えて深々とあいさつをしている。文末を「・・・お願いいたします。」と敬体を使いこなしている。

(これまで全校が集まり、講演会をお聞きしたり、生徒集会・音楽集会を開催したりした時など、お世辞にも静かに耳を傾ける状況ではなかった生徒諸君が、この瞬間、全く違う表情を見せてくれています。嬉しかったなあ。まっすぐに候補者の諸君の思いを受け止めようとしてくれている！ピンと空気が張り詰めていた。)

何て礼節に満ちあふれた演説会だったんだろう。第50代生徒会を全校で、全力で、支えていこうという思いにさせてくれる演説会でした。ここまで心を砕いて準備を整えてくれた選挙管理委員の皆さん、ありがとうございました。そして学年内選挙から始まった各クラスの候補者・責任者の皆さん、大変ご苦労様でした。選挙活動を通して得た貴重な経験は、これからの生活に必ず生きていきますね。

選挙を終え、新たに選出された高野連さん、渡辺壮太さん、藤田怜さんの三役諸君が週明けの職員室にあいさつにきてくれました。



《 初冬の収穫です！ 》

〈JA 共済書道コンクール〉 条幅の部 銅賞 3年 島田結華さん

〈小さな親切運動作文〉

優秀賞 3年 宮坂舞於さん

銀賞 3年 清水彩加さん

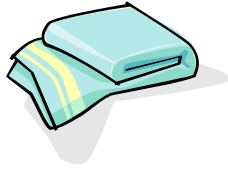
銅賞 3年 阿部侑奈さん 小林恋奈さん 小山祐佳さん 東福寺咲さん

1年 松寄友莉菜さん

佳作 3年 北島真菜さん 須藤詩南乃さん 武士寧々さん

1年 岡村彩里さん 村田琴音さん 両角和香菜さん





《 ありがとうございます ～ 篠ノ井老人クラブ連合会の皆様 ～ 》

11 月、篠ノ井老人クラブ連合会女性部の皆様から中学校へ「タオル」を寄贈していただきました。頂戴いたしました「タオル」には次のご挨拶文が添えられていました。ご紹介いたします。

老人クラブ活動は、健康・友愛・奉仕の三大運動が原点であります。本格的な超高齢化社会を迎えるにあたり、今までの豊かな経験と知識や技能を存分に活用し、生きがいと地域を豊かにする活動、健康作り、介護予防など多彩な活動を展開して参ります。

さて、篠ノ井老人クラブ連合会女性部の〈友愛と奉仕〉の心の活動として、会員からタオルを頂きましたので、ご活用いただきたくお届けいたします。会員一同、地域に役立つことをと願い、今後も継続して活動を続けたいと考えていますので、よろしく願い申し上げます。

いただきました「タオル」は、授業の中で、保健室の中で、活用させていただきます。本当にありがとうございました。

～ ～ ～ ～ ～

11 月 7 日（金）、「第 59 回長野県国語教育研究協議会長野上水内大会」が東条小学校と更北中学校を会場に開催され、1 日参加して参りました。

東条小学校では、1 年生『たぬきの糸車 ～きし なみ作～』でした。木こりのおかみさんに狸汁にされてしまうところを助けられた子狸が、木こり夫婦が山を下りた冬の間、山のように糸をつむぐお話です。春になって、糸をつむいでいるところをおかみさんにのぞかれた子狸は「うれしくて、たまらないというようにぴよんぴよこおどりながら、かえっていきましたとき。」で終末を迎えます。

「子狸はどんなことがうれしかったんだろう？」を学習課題に、叙述に着目したり、動作化したりして、想像しながら子狸の気持ちに迫ります。小学校の授業風景に参加していると、不思議と国語教師であった大村はま先生の言葉が思い返されます。



～子どもは大人が思っているよりずっと自尊心が強くてね。つまり、限らない可能性を秘めて奮闘しているのね。到底できそうもないことでもね、できると信じなきゃいけないわけ。これから何十年と生きていく人でしょ。何か一生懸命なんじゃないかしら、生きていくことに。だから 30 点なんて点を取ってもね、大人が思うほどがっかりしてないのよ。やればできるような気持ちになってるの。それを大人は信じないといけないの。大人が「お前はできる！」と信じ続けてあげる限りにおいて、頼もしい、絶望を知らない魂というか、子どもはそれを信じて生きていくんです。～

「頼もしくて、絶望などこれっぽちも知らない魂」をもつ生徒諸君が、2014 年学習の総決算でもある 11 月 26 日の 2 学期期末テストへ向かっていきました。